

法政大学大学院
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

試験科目	人文科学研究科 哲学専攻 修士課程《社会人》	2026年度 春季
専門科目		

【Ⅰ】

《解答又は解答例》

受験者の知識、理解、考察、議論構築を総合的に問う論述問題であるため、一義的な解答例は示せない。解答にあたっては、①哲学の基礎的で正確な理解を示し、そのうえで ②社会人として社会をどのように理解しているのか、その社会観をもとに社会と哲学とがどのような関係を有しているかを明確に説明すること、これら二点に留意して論述することが求められる。

《出題の意図》

受験者が社会人であることが前提の試験であるため、社会人としての経験を基に現代社会にどのような課題・問題を見出しているのか、また、哲学をどのように理解し、哲学に何を期待しているのか—言い換えれば哲学の社会的価値をどのように捉えているのか—を明確に提示してもらうことを狙いとする。

【Ⅱ】

《解答又は解答例》

1. 形相と質料 eidos, hyle

アリストテレス哲学の基本的かつ重要な用語。実体は形相と質料の合成体と説明される。たとえば家は家の材料（質料、素材）となるものが形相（形と能力・機能）によって本質的に規定されてそのものとしてある。

2. タンピエの禁令

タンピエの禁令とは、1277年にパリ司教エティエンヌ・タンピエが発令した、神学的・哲学的議論に関する禁止事項の申し渡しである。その内容は、当時パリ大学学芸学部において蔓延していたとされる「ラテン・アヴェロエス主義」を払拭するためのものであり、具体的にはアリストテレスに関する講義を禁止するものであった。これは哲学的真理に対する信仰の真理の優位を確認するという意図があり、結果としてこれ以降、哲学と神学の学問領域を明確に区別しようとする傾向が強まり、知的分業を促進する役割を果たすことになった。

3. 生得観念（本有観念）les idées innées

生得観念の考え方は少なくともプラトンにまで遡ることができるが、その理論はデカルト哲学で特に発展した。デカルトは『省察』で「考える私」の中には三種類の観念が見出されると述べた。外来観念は「私」の感覚を通じて得られた観念であり、作為観念は「私」が作り出す観念であるが、これらはいずれも疑わしいものとして確実な真理からは斥けられる一方、無限性や至高の完全性といった観念は感覚からは得られず、有限で不完全な「私」が起源ではありえない観念であることから、生得（本有）観念であることが判明する。生得観念

法政大学大学院
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

試験科目	人文科学研究科 哲学専攻 修士課程《社会人》	2026年度 春季
専門科目		

を基に、無限性や至高の完全性といった観念の唯一の起源となりうる神の实在をデカルトは論証するのである。この考えはスピノザやライプニッツらに継承された一方、ロックら経験派と呼ばれる哲学者らの批判を受けることになる。

4. 国際連盟 Völkerbund

国際連盟は、人類が永遠平和へと向かうためにカントが提唱した、諸国家による国際組織である。永遠平和は世界共和国の理念のもとで構想されるが、世界共和国は実現困難なため、その現実的代替物として諸国家による国際連盟の設立が求められる。国際連盟を構成する諸国家は本来それぞれカントが構想する共和制国家であることが望ましいが、現実はそのようにいかない。とはいえ、たとえ専制国家どうしであっても、国家間の国際問題が世界戦争をもたらさずに、諸国家の話し合いにより調停される場が存在することは、国際平和の促進にとって重要である。

5. 止揚 Aufheben

ヘーゲルの弁証法において提示された、矛盾する二つの契機それぞれを廃棄しながら同時に保存することで、高次の総合・統一を行うことを意味する概念。ヘーゲルの弁証法においては、あらゆるものはそれ自体で単独で規定することができず、それと矛盾する反対のものによって否定される。しかしながらこの反対のものもそれ自体では維持されずさらに否定され、二つの契機を含んだより高次の第三のものへと総合・統一されていく。こうした否定の否定を通じた移行の運動が止揚である。ヘーゲルにおいて止揚は、思考と存在の同一性である概念の論理として、さらには絶対者の自己展開の論理として構想されている。

6. 現象学 Phänomenologie

20世紀初頭のドイツにおいてフッサールが創始した哲学の潮流。弟子のハイデガーがこれを独自に展開し、第二次大戦後はフランスのサルトル、メルロ＝ポンティ、レヴィナス、デリダといった人々がさまざまな方向へと発展させた。現象学の概念はフッサールにおいても時期によって異なっているが、それがはじめに確立されたのは『論理学研究』と『イデーオン』においてである。『イデーオン』でフッサールは、世界を与えられる通りに受け取る自然的態度にたいして、その世界が意識によっていかに構成されているかを分析する現象学的態度を提示した。現象学は、この分析を通じて諸学の基礎づけを行う学として構想された。

7. 「心身問題」 mind-body problem

素朴に考えれば、「心」と「物体」は全く別のものである。「物体」は時間・空間中に明確な位置を持ち、質量・体積・形などの性質を持つが「思考」したり「意識」を持ったりせず、逆に「心」は物理的性質を持たないが心的・意識的性質を持っている。だが少なくとも人間の場合、こうした全く別のものである「心」と「物体（身体）」が互いに影響しあうよう

法政大学大学院
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

試験科目	人文科学研究科 哲学専攻 修士課程《社会人》	2026年度 春季
専門科目		

に見える。なぜ「思考や意識」が身体の運動を引き起こしたり、身体への刺激が痛みや快よさの感覚を引き起こしたりできるのかは、理解するのは困難である。これに対しては、心と身体の相互作用を認める「相互作用説」や並行的過程を考える「並行説」が提唱されたが、種々の理論的難点が存在し、すべての人を納得させるには至らなかった。現代でも「心」を脳の機能に還元する「唯物論」的考え方や、意識の脳からの独立性を認める二元論的考え方など様々な立場が対立しており、「心身問題」は哲学の中心問題であり続けている。

8. 行動経済学 behavioral economics

行動経済学とは、心理学的な知見を活用し、人間の感情的・認知的なバイアスなどを踏まえて経済行動を分析する学問である。従来の経済学が「合理的な意志決定・行動をする個人」を前提とするのに対して、行動経済学は人間がしばしば非合理的な判断をすることを前提とし、それに基づいて人間行動を現実的に分析する。1980年代後半のリチャード・セイラーの研究などを通じて浸透し、ダニエル・カーネマンとエイモス・トゥベルスキーによって提唱されたプロスペクト理論が特に広く知られている。

9. 論理結合子 logical connective

論理結合子は、与えられた二つないし一つの命題に対し作用して一つの命題を対応させる演算であり、よく用いられる論理結合子の例としては、連言、選言、含意、否定がある。それぞれを表す記号として、順に \wedge 、 \vee 、 \rightarrow 、 \neg などが用いられる。

《出題の意図》

哲学の重要事項に関する基本的な理解が受験者にどの程度あるか、基礎的な用語・概念の説明力がどの程度あるかを問うものである。